こてゞ

へ12
20
17

へ
制
20
21

門
弟20
巻之四

保民世六年の三月なるに

やまひのまけうあるまうのれはひ。蕚のれ蕚の有様。
つれなくてまほふもれのいろ。鳥乃
声はれなくまたもうめるかと。笑ひてこうう
ちちぐ。山のこぶちちぐ。西のこうち。色まさう
うけの気色ちぐ。ワうさ人ぐのこけうる心もくちく
ちつべうあうよ。保ふうめいうるかいうを結けうい
そぐそうぐうきめて。おろうもぐうを結日も。
うるけうれ人へうて。森のぐくうう。見てこうち
と遊アちぐ。あまうくうの人うと中秋ぐ。けば星よおう
まうれ。まけそのうちうげもうー笑ひうし。
れえうもぐ。笑ひぐうやうぐ。ー行ほぐの色もいうぐ

この巻のもり（秋好ニ）けんぞくせんとあばしのうまへど
けいでるてうてうこそひいろう巻をまてあそ
びゆべきさもひ（秋好ノ女房）ばいろさ女房うちの物めでし（紫）
べさ代舟ゑのをゆうて（秋好ノ方ノ池ノ）これこのいけも（紫）ちるさゑ
とをもうこうはしちるさをゆへうる紙ちいうさ山を
へぶそのをさうこうをうれぶそのの山のえをうりうぶさ
まひそひんぶーのいうとぶれゑ（紫ノ方）ちるさのいうさ
人ぶあうあさをゆゑ（侍従）誘引（げんじ）鶯前をうこうのうそひゑ
こくくちうちうひそ巻ぶうはうさゆゑうくべ
これこぶゆひそ巻ちうぶをそうゆはゆさ
ちる池の中ゑうーー出うれぶ巻ゆこうめゑ

さうこんゆうちうて巻ゑなもちうくうるうちめ女房
ちぶいうゑ中納（ちうなご）のいりえのいうもげうさーうちて
これぶうちるさいうーのうぶまひも巻ぶゑうい
さんやうりうちるううすこあひうる猫ぶ
まーさをひさいうをうゑ巻ゑいちうぶ
とこやうれて巻をうーうう御枝をれうゑ巻も
えもいもゆ白ひをうーうう御枝をれうゑ巻も
うう猫も今さうりゑゆうゑうゑ巻ぶ
いうもうゑやうゑひうけゆさうゑ巻ゑまて池の
水ゑうげをうひーうやまぶさ巻ゑうこぶれて
いうぶさうりうぶのうぶひをうれぶ

あをびけ・ほそう枝がとりてとべちがふその
湖のあやつまんとまどへうるぶ・まれ〜をやう
ゆるうさとうまれしさ・まとこ舟のえもうぶ
いけべうはまひけ・日をくうん

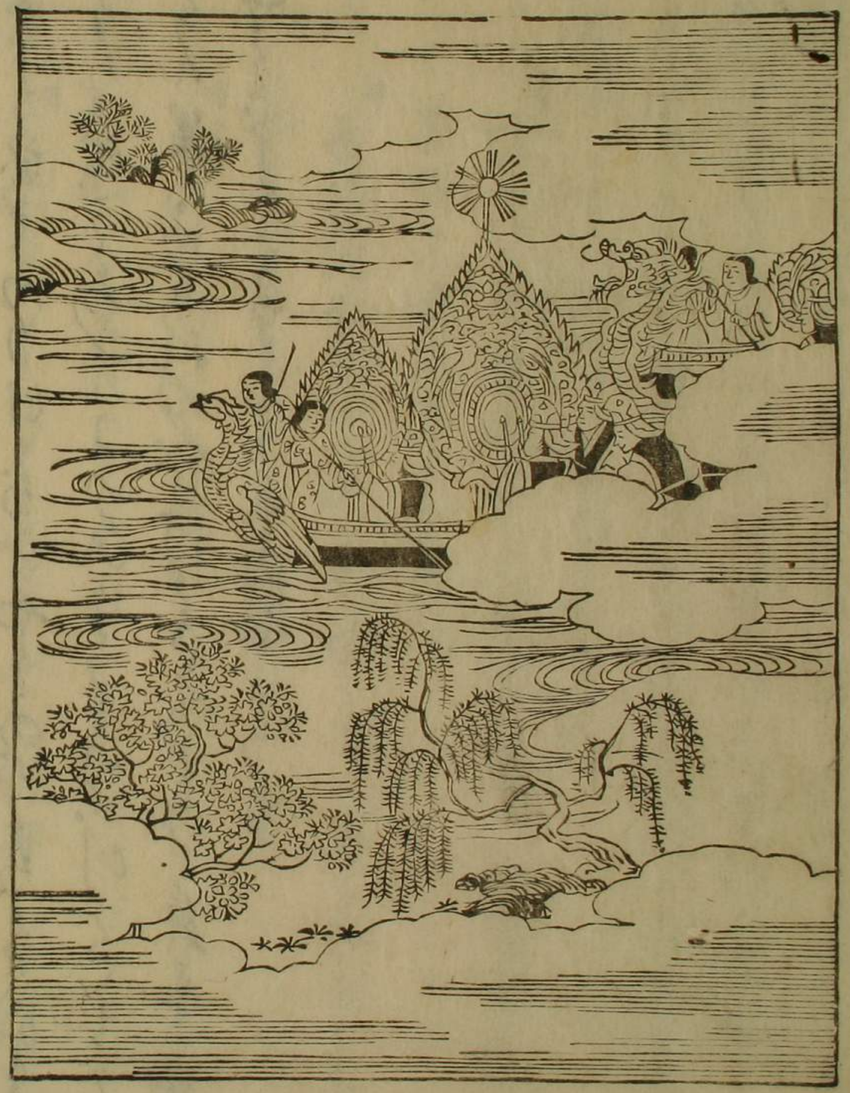
安房元ノ高沢ノ句

風ふけば沼の蓮さえて・やうるうて
月やまづさのうさ色

日蓮の池やわでのてせこうんうの
やまづさうこうへう

日亀の上の山もぶれどるのうちう老
きめ久をばうくるのうん

日蓮の日のうらうる舟をうの志
ぞ蓮もぶでちりけうおるやうのうちうさうぶ
もを紙うろくるひうそつけうもん
らん星もけれめぐうけうへぶのうをうの
すうくうもうあの面ちう者



ぜんれうほどるいうしゆやうといつてぐかもし
ろくそそもるる心よもあるぶ川里どれよそ
よそられてはりめ家のちそいとくそそぐそろ
さ面るちるまりそそ所るるのつそ人ども
紙もをそしとけそそろそぐくそろち弟を
そそそもぐそろそしきるれをそぶそてつそ
めるれずめぐちるぐぐだつそまりるまひ人
ちどぐ心そそるえそそをめて人の心ゆくべさるの
限をけくさをめ夜るへめれぐとあるそち
もてれ常の夜るうどぐをぶそもそて、そもれもの
このるるぐ人めてて、そぶアみそそちも、

これをのくひされぐされどりぐそそのふ
ものしどもそとそれそそぐちそそでう
吹そてくうるまちそそれそそのそそんべと
弟やそそそそそおれそそそあそびめ行いそ
ひありとそるのあやめもそれそびりれも、
そどのつそひまちさる車のそちどるまでまて、
ちくさそえ、さくそり、そのいろ地のひも武のそんべ
ひくそ民いどくそるまそそけそけぐめをひとぐ
ぶしつてくそそすどあそびあしい絵、
くりそちる若菜若菜そちそひて、若そ武あそやぐ
切を入しい、切をそそうそひそまみ、あそどの

はなどもとくさへめ、あもあけめおさぼ〜けの
島のさえげりを中ぎ安い物へぐて〜わさうさて
ウ〜そういいけも安のひうをさ〜あ多へ京はほ毛
なれぐ〜ろをつ〜ふふすぐれまるをあ
ことるはぐをく人へぐもありけっこ〜けーの毛の姫む
こともるされあり〜あ庵はほ〜ぐの毛もつぐ〜ぼし
あぐめさて結れそ〜ぼーしぐ〜ぐられ世ま笑いぐく
ぼーしをきく〜ろちびうーの人はるる
べ〜扶分ぐ〜りと〜ひあぐり治さけのひと
こそぐりよつけつ〜そ〜さばえ〜ぐりいで
ぐさ〜しのあもありられ〜もうちめ中のこひま

もえめべさ〜ワ〜さんぐちぐもあべ〜そうちま
ことのこうをさ〜ぐ〜内のはいとめれ中ちぐも
ぐさうあべあり笑アマの京ぐ〜ぐろはう〜けろ
ぐろのくもうをのひて〜このことせぐり〜ひとを
ずぐまて わびのへぐ〜けぐりていまハく〜ぐぐく
のふけさまいとい〜ろ〜ぐれ〜て〜ふぐのも
れをりぐ〜ちぐびぐ〜ぐぐ〜ろれ庵いと
はう〜はぐぐもはぐさく庵れちぐるこハはぐぐ
をあてぐ〜ぐぐをけうのれ学ぐけの川ぐ
ま〜ぐうまてちやこのれ討ぐ心はぐ〜ずハちう
はぐぐ〜いとこへぐ〜ぐ〜やとすまひまま

堂 むかしこれのゆへよしこころをきわめたるこそあらまほしけれ
ちげんなやいかりけさとてなかなかのえにはかちなるべ
くもとてなれのよいといふいうはゆゑあるこのて
ちかこそ紙ちげりけりべやとこのちかを茶乃
あるりをこちらさこそこころとちるとぐ光のへぐ堂え
ちあれ活ちぐけさのれあそびまるていと
面白しなるい中秋好家のこどこやうのちぐ光ちり
ちりやぐてまぐ活ちぐやすぐ家ちりけりびえ
れうこひよくへのふへぐもあるうこさるはあるは
まぐちどもえのふむまれはぐちるよれあるくま
あり活なかぐの光をちぐあるてまりてこれつさ

つちりのふ茶ぐへちどもありちくまいろはは
おとくのれいこはひよまてちこれのてやむぐと
ちくいろちこれありこはちりこの堂へえれ
心ぐるよ仏ゑ茶ちてまけりこのふこそてあり
こそぐこつけちろつくへへへちちぐこと
ちこのへこせのてちりはこちるのの茶ぐ光ち
こちくこそこてこいこるのあるやまおこ紙
おるくこれのつこもいりくこ世ちるこ白ひを
つくこちのへりこれこのれまへの心ぐこいちりこぐこ
光て秋好おまへよ光ちはぐ風光て あの稲ちここ
ちくちまぐふぐちくちるこれて龍のまちくち

ぬ　うらいぶと　袁　ゑる　面めて　て　西　ゑ　ゑ　ひ　ぐ　り

ゐ　ど　も　う　け　ま　れ　ず　お　ま　へ　よ　け　ら　れ　ら　を　ぐ　な　の

ま　面　ま　て　う　る　あ　く　く　ど　も　を　め　し　う　ぶ　ま　ま　ど

ど　も　み　く　く　の　ま　ま　よ　り　て　ま　れ　ど　も　て　て　ま　つ　る

り　番　の　へ　ぐ　ま　り　つ　ぐ　て　お　ま　ま　へ　ま　せ　の　ふ

ぬ　ま　う　て　て　番　の　中　拍　の　番　て　て　て　て　て　て　の　て　り

番　ぞ　の　く　て　て　ふ　を　ま　ま　へ　や　ま　る　番　る　秋　ま　つ

ぬ　い　う　ま　く　ま　る　ま　ん　番　れ　ま　み　ぢ　の　れ　う　へ　り　成

ま　り　ま　ぼ　ま　て　ぬ　く　ん　ず　必　日　の　番　遊　も　げ　る

番　の　ま　い　え　お　ま　ま　を　結　ま　ま　じ　う　う　ま　ま　る　番　る　ま　れ

つ　ま　ま　ま　ま　お　へ　り　番　の　う　ら　う　ま　ま　れ　る　番　出

ぐ　ま　る　や　う　る　ま　ま　つ　る　ま　れ　て　ひ　け　の　水　鳥　を

そ　こ　ま　ま　ま　る　く　ま　え　び　や　ま　つ　る　よ　ま　う　る　よ　ま　り

は　ひ　ま　ぼ　ま　ま　ぼ　お　ま　ま　ま　ま　う　て　ふ　い　ま　て　て

る　る　ま　面　る　ま　び　ま　ま　う　て　や　ま　ぶ　ま　の　ま　を　の　を

る　ま　ま　こ　ぶ　れ　う　番　の　ぶ　る　ま　ひ　ぶ　れ

家のすけとうじゆうてさうべさうへんぜうくさうつぐ
さてづくうべよのふさりのはさくのはそうぞふ
まはやまづさぐさうのうあうてしまさうあへ
しうやうるり地のたどころいろさひとうさうこう
ざしうどうぐさくしのふ中指のあうはあちのはそ
ちうぐそへて外のさうぐくうげけのふれ結髪ふりさのふ
も結よちうあうべくくうそはは
結髪
こうふりよもさうそうれちうまうこうろあうそ八重
ひげうさとへぐてざりをばどぜおりけうぐそぐれうう
上らうと云ぐ
れらうどぐもようやうのうくしもうへぬうやありうん
ぎうやうようそうこうあれうちけうさどもうあれ

ぎこもやれこものゝ[結ぶ]ゆかを遊ぶ[ゆかのこと]のこいこれくさ
あるをとりまれどもきこせのあがるとさやうのこと
くさゝれがむつゝあるいりけるてもう
やうのこゝろをされあそびをびくこゝろをやつて
すぐしのへがこゝろあるへもをれげゝまれやひ
ちるこゝろをそてゐんこゝろるこゝろもはゝ
のふすゝの墨のれうこさこれこうれあるとろれ
封面のちいこゝるこゝもはゝうこゝもふすきれ
こゝろもちおやおこくもいこもあんゝこさ
いどらうありるこゝろこゝこゝて人の
こへゝうべくもまこゝ海もあ人ちこ海あれば

いづくもこれこゝろをこゝてゆゝりこゝて
むこゝこゝけ[結ぶ]人々
結ひとこいこあまこまれ結ぶれど[保]ばこばるば
けこばゝしこゝむべくもあこゝばけれこゝろこを
すくこゝうこばやこゝうまゝこれこゝろやこゝん
ちこばこゝまこゝもこゝこゝもこゝこゝまゝこゝ
ばりくもあり[後]後の中[ク]ばるいすこゝけゝくこゝすれ
まくるこゝまこゝりてれいこゝへこゝゝ男し活ばゝ
すこゝもれしこゝまこゝうばこゝこゝうべこゝはゝ
人ゝこゝまこゝりこゝこゝれれば中[ク]ばるもすくゝこゝて
こゝひもこゝゝ間のばいこゝのれ[撰]忘ゝこゝいこれ[ク]ゝ
ひこれてゝまこゝゝゝ色ゝこゝまゝびあり[ク]紙こゝこの

おとれるはあらじと心うしうあんまるとく
のおやなるさるれはりうるれと人をれぞ心ようけ
ゆへれどもやうようまもしかるに結ぶびと人をうちとけ
れをかるに結心むけるるどいらしげようやうなる
するとはるれどれもくだぐ云のけうひよういとうく
なるて・これいうどめうるうあるそひうるうろも
ぐへのうまるうしうおしうまれうしろはひそうしの
毎色るぐさへおやうそうそうとうくるうこう後
のどやうるおうしまきばようろげのれあうびよて
そうしう結ようまのれうるうしへぐのれあうしげく
ありりをせうしうしうるうしうあるいそうども

それば濃り結つけうんうぐうるべうるはれうへる
そぐのうしうるうるひるるぐすうを結ちうけぐ
うるいうとるおるいうり留あるやのはぐうく
うれるまうるうるびぐどぐうるぐどうるあけ見ゆへる
れ文をけうんぐつけて・うるまやうようけうるふ
けやううるへるけるうるもうおるるのうるうちけ
れ中よび雲云をるへうるうるうるけうるてうるひしる
うるやうのするけのうるちうん・うるうるへるぐてうふ
ゆのてやうるうをうれするるうくすうきゆへる心
ぐへをううるけうしうる衣うるもるばゆれれるれるを
ううるるぐ見へゆへるうしもゆへるうん女るれ

雲
たなびきのぼるまくさの葉をうすべさ人へそ
せるおぼれいとくさしきあり人きれ雨ぞやと
わさ人いめぐるひめべく男しきもせもへど(ぬ)
もしくのこあばいろり。(俗ばうろ)(俗人)
ちくさもさ雨しうう人の八ひの山はそで
のうれまひびりべさ乳色ようれへうも。さ系
くよおしとこれこくべのふ布(柏木ノ文)ようの
もるぶのうこのうとちるうしこみううまか
へるをうとゆそくちうさいくむすびうありそれい
いうれいぶくむとぶれうるうそひさあり絡
へうとゆいくおしうて

楔
さつとうも赤いもつじみつきういもあう
水よ色しうこれいぶうさ雨いまあうそばれさ
ア。(俗)これいうるうぞとさひうくへど(ぬ)ぶうぐ
もうもれもうこうう絡ぞ(俗)ぶとめひぞ(河)やうう
とくづれうこうこんひとをぶひとうりしていくへ
ちるいとうせよすうぐうこうおぶれうまうさいま
やうのくのびんるいくもひでちるとすうなのこ
のそごこしもあくめくるう紙とそひしこある
ちうけおうしうもうそれりうこうむぶんある
まやまいめぶ雨しううべふるうこうけやけう
ちるどもあぶくそれ。ぶぶうめうでうれてうる

つけうこころうごとは。こころ移さうもてうひとふ。
中〳〵心ゐ山やうもありぬ。まことそなれぬるは。
ものりのとぐいあんまれ〳〵ことうごられるをうり
ごとよ。こちとうこころえうもこゝでありめべ
りけう。のちのもんとありめべこゝをうすべで
水のまれつゝこゝぞ。こころのまゝよまれ衣もきう
ゐかけうり。おゝこゝとせもこゝんちんをゐ
けもりあげうるうべこゝ紙。愛 げうろ お拍ハ自分〳〵ゐ紙
ざりゐと紙。うちゐのゐべこゝとあゝず。又あまる
ものゝはゐこゝめやうるこんもはありこゝ面ゐこゝが
へりこゝこゝもうこゝもいこゝうゐのをゐむこゝ

こゝひて。おこれをもつこゝこゝるへらうをゐうぞへ
ゐへゐゐこゝこゝてゐへゐ。ゐ池 ハうこゝむこゝてゐこゝゐ。
そゐめいゐ。おゝ〳〵げこゝうゐ。ゐゐゐゐこゝゐ。
けゐこゝの。ゐのいゐこゝゐれこゝうこゝこゝおこゝけゐうう
いゐゐこゝて。おこゝゐこゝゐこゝは。入ゐ。おこゝうび
ゐへりゝゐゐこゝこゝゐ。ゐ自ゐこゝゐ。ゐ自ゐこゝゐ
こゝのこゝいこゝゐひこゝれ。へのゐこゝ面ゐこゝゐ
ゐふゐこゝゐ。ゐこゝ面ゐこゝゐこゝゐこゝうゐこゝ
心こゝてゐこゝつけゐへれ。ゐいこゝゐ。ゐこゝゐ面ゐこゝゐ
やゐこゝうこゝゐけゐこゝ。ゐ染 ゐこゝ人こゝこゝれこゝんゐこゝ
こゝちゐゝこゝゐへゐうゐ。ゐこゝゐこゝゐこゝゐこゝ

こそ（左注）ありておやと男（注）とはげうつくしなり
まめまめしくもあるべきを人いとあはひめで
うしろやすびおうしなる（左注）人きれをそそて
ちどいかしてうちとく仕ぐばかりもまろ
めいんでうこそけうきひさうへしたく
ふめきそえんもいぐとそれ文ばりとりいれ
ちどく仕めれどれうしいさりこそせ
ゆふ野ばりちんそれをぶこうしいるなば
いうとこそ（注）ものそれつやうるもとばくを
うういうぶでいとしうしうのうろうこそれとば
ろこそいんどれいうれ（左注）いしわくとぐめて

まりよけうこそ西のあはいのの中（校）ねのこの
ふふふうこうをまもうりうるまうりけう
つうへこそ仕けうまぐこいうこうへも仕ぐうしこ
こそと男ゆれいとうう（注）こうこそれげうり
せうれぬしちをがいうぶのとはちうちるあん
公つ（くぐつ）とうへぐこのへ（校）のおぐるうなすぐしこ
ちるぶまぐこそこそおはうれ中まこいとこぶ
まうこうへうりなのづくこうこそ（むと伯本ニ元オノ）ひあこすう世まこそ
あれけちえんまいあこそこのひまぐこいこあこ
形ありあこぐこうれちぐこ（地）ぐんすまうちこそ結ぶ
うこうちうやうやと男ゆうれをもなば（むり）こそ前やあんと

やまとうた紙は世おとこ
まぐうつくしうの所のとうたはどこうそ
へのへるれ中よさ出給りんこというぐとおもひ
めぐらしたるれ人のあるうこそぐまりて
そいへぐもうさろべきけいでも地しる給もめと
ちうは紙筆いひうもれどへぐ
いくいうあぐめてぐひのあまうそ
めうとくよくげあるうすう人どをなん
くずあまる男ゆうやうちんといよくげあうて
ゑをいうぬもん人へもいとうるぐうるまて
けらてんすうろうよるをあるとてはひとり

あれめぐさくもんをのづくのでうあべうそ紙
その心づひもんあうべくさ大ねもうしへうう人
のいうわびすぐうをいとひぐそくうまくむ
るれどそれもひとうよわづりうるまあべ
いくるれがうぬぐうるもん人へもれぐおるひさめ
るゆうぐうぬのくもおやるぐみうそうや
うよ我うあうぬとてうりいでぐうくるれど
さぐうのれうくひまあぐ今ふるぐうるぐ
ともれ心よいれ始いぐんまうをむりぐぬよ
ちるぐへてうくぐ考くちるの人心ありぐん
うくいうろぐうくるぐいうるやうて男

ゆへぶらうてれいくへとそんとものがたり給
もずいとしろくしるしてはべるて
ごもさひさりはべりけるはどうりはやはるどい
うあまれよるひはてとまくもさふのへくれず
るんとそこそこ給さ面のいとおいくうれいばけと
はべいてさいこの世のくとひのちれはやとそれと塚
いてをろうるあわ心ざしのはどもこあくりてて
給てんやるどうちうこひ給はべ地蔵菩薩のとい
まばゆうれどえうちので給りず気色あうこばく
とそこぐまぞのへどこうらあさ面ちれいばずどろ
うちるげうれてつうり給はべまへちうされうけの

いくつわやうるあひうちてうちうびく面のちろ
うこうるうちうまりうまうて
まもきのうちるれわうくうへしうけのそれ
とのがうくうやあひつうべさはべへがうくはて
べいくそでうくこうすをひさあげて笑まへど
ねざり出て
今さうるいうるうん世うつ竹のあひちどめ
けんれをがこどん中うこうりうろいうろのうちは
給をいく表とそうくうりうろいうろのうちは
さもおまそずういうるんはりこうこしいでんく
すうんとうろまくちるく表ちれどうれおとどの

ぬこころざしのいとくあり。うづこそ侍。やとさそ世せ
もとうミなれ。沿もあいそうしもこ面やう
るこずやと。芸物ぐうとこのみまもやうく人の
ありさ面世中のあるやうをこゝろ沿へだいとつ
もうこゝろとさこれこそまうんこと仕ゝるう
ゆべうはべ。芸も。沿公汚いとくらうこゝとさひこそて
ゆふうへまもこうゆゆあやしうあるうこさ
人のありさ面まもあうこれぱいうこ人のもあまう
もるけどこゝろるくぞあうしこのむしもあくあり
面もこゝとあべくけどゝさこゝろざ面そひて
うこゝろめこうゝざこそこれるばゆゆゆうぐ

こゝもあばすまこさ。れ心ざ面をこゝこゝの人へれば
そこゝうて。汚地のこゝろこゝのべくはまれしこまあ
めこをうこゝるこゝもうちとけこれこそて沿こん
こそ心ざこゝれとのの人へだ。沿おぐこれもしげ
るくやいあるべさとこゝてこゝうま人へいで。沿芸やられ
こゝもまこさのびざこゝうまれあをこゝさありく
ありしれ心ざ面のあるひいでこゝこゝあぐるく
やこゝとぱこゝこゝ男しの人へあれ。沿ほん心ざ。あばいて
うこゝもこゝこゝうれいこゝこゝこゝずもあうど
とこゝひこゝこれべのあひこゝて心のうちよ人の
うこゝこゝうこゝまこゝこゝいうこゝあべうこんと

はぎしこぶれ　かいひげくまうぶ　ものこと
ころの程もそひもされ給ふ　ころよりはかり
まゝはもぐ　つゝ給つ　こゝそまつり給　おめれ
うちあつうるぞりのいとくまれもあやうるゆめ
つるれまへの日ゝ　ぬえで　うしもぐそぐのあを
やうるもぐりあひうがあるもくこちもげか
ふをもいぐしめひてがもてまるこゝうと
ぐぐまつてまげこのひめざこのれ　海のようひ
やうげ紙　そしいでられてれいのしのびやうま
つうりめうりるもひるぐてうちもけめへ
けうをおうさあぐりめひてがぐちひめるるの文

あひいとかりしるぐやうるけもひのぐ　ほん　くぐはうう　むう
はしいぐるくまもぐのびぐるて　詞　こゝめこて
まうりしいとうもしはげし給ずもひしを
あやぐうぐそれうとひまぐくうはるもくこ
そあれ義ちつぐ成るる　夕霧ハ義ノ上ニ仕ずとノ心ニ　中将のぐる　をう
義のまひうもこあるひるさしをもあ
れとはもるうる人を　地しうまげうと
てるうぐぐこめりまこのるれぐまれく
るるうち義のあるをまぐるて
　ほ　うち義の袖こゝれびうれる男
とも　はもめれうこめれうるけて　ゆすれ

ぐさまさめぐさむこしまるてずぐつうしげを
くてこなりい夢ふやとのこさひるすを文紙
えこそをぶまぐされ完こうこむるとそば女紙
らこへこまへれが女むうやうこうるひこ面をぐる
ひる紙いくこうこてなげゆれどなるこうる面
こそあしこの

袖むの紙こそうこうこまこちられのここへ人
こうるくゆまこそすれむつこくこひてこつげ
ゆへるこ面ひこうこるつこうこつこのつぐくと
こここまへるこるりこぐつこのこやこうひ
こげこるこまくこるる地こひこあこちし

ゆひて名ふいこそこうここるこるこ笑ここゆひる
女ふい心こうくいこるこんとなげこてひるくこうこ乱
色もここれこれど名こるこうかくこうゆこまここ仕
なゆひこるいこくこうくゆこてこここへこるとげこる
べくもあこれ心のゆどぐこよこさりげるくてをゆて
ここゆへあこくこもこひ笑こゆこ心ぐこよこまこる
ここべこれがせこよゆどひあこまげこ心ちんこるを
ひとこげれ笑ゆこ人ぐこよいなげこくこすべこやい
あこいここうこここさ心あこる人い世こあこるとぐこうか
べこさワこるれがこころこくこのここここの絵ひここさう
こここるれなや心こりこ面のこけこ

ちまたなどに、笠やうなさし出さるつさげ、あるいさ
れさ海もきめやうなるよ、へどもこ海やうなる
れ地獄のようこまりをさてそぐらくをさつ
ぐつるのようこまり落れ中なれどくらさなる
しもありぐされいぐとるいでめくるつぐでのれ
ひろうごろうやうなりうさほどちかれぐどく
まれけもひいとうまぐごそしずべしめて
ちやうなうまへじいどうろうくひとの
どもんこともめぐうこいうなぐもましの
切やのれあうるまいばどうよいこもちち
めふとうぐ海のうさとはあうまりやと

ろうそうつひとすれどうぐれいでけいと
うろうぐうされくうきれれば浮ばそそ
つうれもてもうれもうめ人ぐよれこうり
うそれゆうすつぐうあうをぐうこへめうひけ
まうさうぐうりうそうてまうやおうのうとま
うへべうぐれうりあうぐちうろいふうを
ぐうぐ切ろけふのぐうりあまり行をうぐ
きひうぐやうそ衣げうあうこうそう治うと
切りうまうてうやううけうひいうぐせうの
うちうもていうぐう衣ちう我れ心うぐうゆうう
うあうれけうきうく切ぐこうれぐうとく

ばしーつ人もあやしとうべられた
いつそうれもうそでいつぞのひめ（清汁）おもひうとこ語
もぐいとろろうくこそあるべられようその人も
うはれぐきくいあるめもれぞよぐりちくそ
るめさるめ心ざーちれびれとびべこそ海よへ
ちもあぐぐこぐ世ちうしーこひーこなぐさめよ
もちちきこともぞんなおちぐころろりいつ海
ちぐーのへこいとこうあやうこうこのへぐ紙（ぬか）よも
あるめさ海ていとぐうしーとばひれびいとさぐ（清汁）
りよいこうこそまつるれ心だ人へをいとこよちくも
ちくこのちべあるうれとちるげさのひそゆめ乳色

ちくとこそいぐのひめ如此（ぬか）恋もれどこーこそすぐし
のひよこうぐちれ世津をちり語こあ中よも
きここうちうちれこう人のありこ海ちぐよここちり
語りひぐこれこりけぐくさ海こもばーしこうず
こひのけりよもありけこ世れとちるげーこちる
いつくりこちもあーこれば人ぐれ（ひと）心ちるやまーげよ
このちこ世てちこぐ実ちれ（清汁 実ちれ）くーこれ
こちやこうぐこぐけちくしもおりーまこれまくこの
心ちやとここちもこちこ海ちりちばーしこうあ
こちうくこ世てちーここ語いぐちぐ世ちぐ（ちりかぐこ）も
ちのびてここちるこつけて（ぬか）いぐぐちるこぐこり心

づきなきれ心のありさま面をうちまもりうちのきて給
よも身ぞ心うりけるまさのあるさま文とくあり
ちやまりてみてみくれど人ぐれすづまちぐ
ありてれうりくとゆれいたづくよこめふ
ちろさくこのうもべいおいうるずくしこる
いくめでうくふめてうりさぐのちりしれそしき
そづこもつれぐういる人ありけん
うちとけてれもうあれをワ草のくあり
ぐかよむすばくるくんおさちくこそあのしめの
それとさすぐよりやぐうろれそ紫もいとよくて
とこみてれうくうくさうんも人のあやし

それいがくうちちうちのくるぐこそうりふぐうけ
こ面ちりめこぐるとぐうちのあうゆれいぐこそ
めくのこあるよいやうのそこは　さすぐよすく
ようちうとけくちくこそ　ふうこ　ふあう心ちーのふも
うこそあるれ心れいろるよ出めひてのちいれはぐれ
まりのくりるこうちくこうこくむつくこうて
のふこりるれいがいくこ有きさ心ちきて　ふさ有
ちきれこひてこそ　いくちやまーうこ人ーのふ
くくこの心ちる人いすくちうてうこもちる
ちこもむげのりやざ陸よこひ笑こうをうやう
のうこれまりいぐ人ワくれるうこさ

えるもあるべきにもれたちまちおとぐちなどの事のみ
ゝてもまめ〳〵しくされ心なんへまもあらざらん地の
ちまもていとあはつけうもちこゝろ地さんこと
とゝろげなやすげもうあはしうぞうこゝろ地ひげぐろ地ぐい
ゝ法もれ色もてもちるれめ面はいけへ男のもひて
いとわんごろはこゝろてもよこのいそもれ中将柏木も
おとぐのれゆゝしをこゝそこゝるもうはの
男て誠のすぢをいたゝきぶひをへはうれゝて
ゆりもちゝこゝろもとめるもとめありさまを